

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 53 2019年5月



〒102-0093 千代田区平河町 1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>

I N D E X

第3回 UPR に北朝鮮が提出した報告書を読んで（小川晴久） 1

【資料】自由朝鮮のための宣言文（DailyNK Japan 編集部 訳） 3

自由朝鮮、「政治犯収容所解体」を要求！（山下 誠） 5

第3回 UPR に北朝鮮が提出した報告書を読んで

代 表 小川晴久

5月9日から17日まで国連人権理事会で16カ国の第3回目のUPR（普遍的定期的審査）がおこなわれており、5月9日北朝鮮の人権状況の吟味がなされた。今年の2月20日に北朝鮮当局は審査を受ける第3回目の報告書を提出した。国連の文書記号ではA/HRC/WG.6/33/PRK/1である。

主な内容は3部構成になっていて、第1部は、人権の保護と推進のために取られた法的

制度的処置、第2部は、その具体的成果、第3部は、挑戦と目標となっていて、第1部や第2部は、北朝鮮が加入している子どもの権利条約や女性差別撤廃条約、身障者の国際条約に関する内容になっている。書かれていることが本当に実践されているのか、チェックされる必要があるが、国連の特別報告者は、身障者条約の特別報告者の入国しか許していない北朝鮮であるので、どの程度この報告が

評価できるかはわからない。



今回の北朝鮮側が出してきた報告書の中で、この紙面で紹介したいのは第3部の挑戦と目標の所である。85節と86節を以下に翻訳してみたい。

「85節、人権の保護と推進のためのわが国北朝鮮の努力は引き続き深刻な障害と挑戦に直面している。そのうち最も深刻なものは国連安全保障理事会の制裁である。それは人権に反するものであり、わが国に課せられたいくらかの国による残酷な一方的な制裁である。これらの制裁は子どもや女性や身障者に必要な薬や医学的設備の普及を妨げている。わが国の経済的発展のための外国との正常な貿易が妨げられているのは言うまでもない。これらは人民の生存権の侵害をなしていて、これらの制裁は人権の保護と推進のためにするわが国の努力にとっての大きな妨げとなっている。

86節、国連人権理事会と他の国際人権会議で激烈におこなわれている、政治化、差別化、二重基準は、人権の保護と推進のためにおこなっているわが国の努力の別な大きな障害をなしている。毎年敵対的な勢力と西洋の何カ国は国連人権理事会と国連総会で、反北朝鮮的な人権決議をレイルロード化している。その決議はわが国の偽りの人権問題に誤りを盛り込んだものである。彼らは人権の保護と推進のためわが国が取っているイニシアティブに注意を払わず、それを認めようとしない。彼らは一握りの脱北者の間違った証言に頼っている。それらはわが国のイメージを曇らせ、国際世論を誤導し、対決を叫ぶことに計算されて、人権の保護と推進のためのわが国の確かな努力と熱心さを妨げることにのみ奉仕しているのである。」

85節は今国連が取っている北朝鮮の核開

発とミサイル開発に対する経済制裁に対し、なぜそれが取られているかについては口をつぐみ、その制裁が国内での人権の保護と推進を妨げていることのみを強調している。

86節はこの10年来国連人権理事会や総会での対北朝鮮決議が、一部の脱北者の誤った証言に基づく、政治的、差別的、二重基準の、虚偽の決議であると、全面否定している。国連加盟国大半の北朝鮮に対する人権改善要請を一切無視した、ひどい態度の表明であることを、あらためてわれわれは確認させられる。政治犯収容所の否認、血縁的連座制の否認は言うまでもない。否定するとしてもそれへの言及すらない。

特に86節のこのような態度は、北朝鮮当局が人権改善のために具体的な努力をしているという、第1部、第2部の内容に全くふさわしくない。具体的に改善しているというなら、第3部の叙述に何らかの謙虚さが現れていい。



今年の北朝鮮の第3回目のUPR審査に際し世界の人権NGOからたくさんの改善要求が出されていることを、国連人権理事会は2月18日付けで文書にして公開しているが(A/HRC/WG.6/33/PRK/3)、北朝鮮当局は政治犯収容所の存在を認めよという要求はとりわけ注目される。NO FENCEとしては政治犯収容所＝強制収容所の存在を日本国内で広め、北朝鮮当局にこんな報告書を出させないような運動をも展開していかなければならないことを感じさせられた。



【資料】自由朝鮮のための宣言文

2019年3月1日



DailyNK Japan 編集部 訳

去る3月1日、3・1独立宣言書100周年の日に、ソウルのパゴダ公園で、またネットで全世界に発表された、自由朝鮮という臨時政府立ち上げの宣言書です。原文は朝鮮文ですが、Daily NK Japanの訳文を、許可を得て掲載します。呼びかけはまず北朝鮮内部の人々になされています。3・1独立宣言書100周年の日になされたことも注目されます。経済制裁の中、北朝鮮ではまた飢餓が広がりはじめていと言われます。——小川晴久

百年前の今日、先祖たちは無慈悲な迫害と耐え難き恥辱の構造を覆すべく、独立と自由を叫んだ。命を脅かされつつも、啓蒙時代の前兆を知らせた。女性と男性が誰にも渡せない権利を有する時代であり、公正かつ正しい国家が、隣人と調和を成し、皆に安全と幸福を保証する時代だった。

しかし、挙事は成し遂げられなかった。こんにちに至るまで数千万の同志たちは、墮落した体制の力なき奴隷となっている。彼らの苦役は、少数の者の腹を満たし、その者らは腐敗で君臨し、想像だにできぬ破壊力だけを育てた。そのように根を下ろした全体主義にひれ伏すかのごとく、心にもないお世辞と貢物を捧げ、事実には背を向ける者には笑顔で手を差し伸べた。

ここに朝鮮人民は、不道徳で違法な体制を次のように告発する。

食べさせる能力がありながら、数百万人を飢餓で苦しめた罪

政府主導の殺人と拷問、監禁の罪
息の根を締め上げる監視と思想統制の罪
階級による強姦と奴隷化、強制堕胎の罪

全世界で犯した政治的暗殺とテロ行為の罪
わが子供たちの強制労働と可能性抑圧の罪
殺傷破壊の目的による巨大な破壊力の現代兵器開発と流通、残虐行為に使用しようとする者たちと取引した罪

その他、混在した不法行為を犯した罪

半世紀が過ぎても、家族を人質として囚われている間、われわれはただ救いのみを渴望した。力があり裕福な国がわれわれの願いを無視したまま、むしろ苦しめる者どもの私利を満たし、彼らをより大胆にするのを目撃した。南朝鮮の繁栄と発展の顕著な業績を見て、彼らが富国強盛の歴史を興す間、その裏に取り残された兄弟姉妹を忘れずにいることを願った。

しかし、解放はやって来なかった。

先祖と子孫の両方の要求を掲げよう。われわれの魂は、もはや待つてはならないと断言する。われわれも喜びと人間の尊厳、教育と健康そして安全を享受して当然ではないか？自由を要求する。ここに、われわれが耐え忍ぶべき運命と義務を自らに課す。

吾等ハ茲ニ奮起セリ 良心ハ我ト同存シ 眞理ハ我ト併進ス 男女老少陰鬱ナル古巢ヨリ活潑ニ起來シテ萬衆ト共ニ欣快ナル復活ヲ成遂セントス 千百世祖ハ吾等ヲ陰佑シ全世界ノ氣運ハ吾等ヲ外護ス著手ハ即チ成功ナリ 只前頭ノ光明ニ向ツテ併進スルノミト云爾

自由朝鮮の建立を宣言する。この臨時政府は、人権と人道主義を尊重する国家を建設するための根幹を立て、すべての女性と男性、児童の尊貴で明確な尊厳を尊重する。

この政府が北朝鮮の人民を代表する唯一の正当な組織であることを宣言する。

過去数十年間、人道主義に反する莫大な罪を犯した北朝鮮の権力に抗うべく立ち上がる。人類の精神の巨大な汚点である非道な権力を撤廃すべく身を捧げる。

反対する。そして抗う。光復という明るい光が平壤に至る日まで、人民を抑圧した者に抗い戦う。

肉体的にも精神的に縛られた同胞たちがいるために、われわれは進む。われわれは、すべてのくびきを押し折るだろう。

体制の中で、この宣言を聞く者よ、抑圧者に抵抗せよ。公然と挑んだり、静かに抵抗したりせよ。多くの者が加害者であり、被害者でもある。共に身を投じて、われわれを蝕み、われわれの子どもたちまでも脅かす野蛮な体制を崩壊させなければならない。この体制内での共謀は、おそらく抗い得ないものであっただろう。今だけが、国と（自分の）名前を取り戻す唯一の機会である。今まで行使

した腐敗した権力に対する、愚かな首領神格化集団に対する、独創性と人間性を縛る広範かつ異常な束縛に対する、このすべての忠誠について、免罪されるだろう。われわれはもはや、被害者ではなく勝利者だ。

志を同じくするディアスポラ同志よ、革命に参加せよ。数千年の歴史、先祖の犠牲と数千万同胞の共有された遺産は、元いたところを取り戻せと泣き叫ぶ。偶然によらなければ、自由に生まれた同胞たちも奴隷となっていただろう。業績と勇気が、生まれつきのものだったり犠牲と引き換えに得たりした才能が、この時のためのものではなかったと誰が知ろう。

この体制を正当化し、維持しようとする者どもよ、歴史は、選択が与えられたときにあなたがどの側に立っていたか記憶するだろう。

過去の独裁と抑圧の傷を持った国々よ、われわれと連帯することを要請する。われわれとあなたの自由のために。

理想を共にする全世界の仲間たちよ、過去にわれわれの痛みを知らなかったとしても、今日にでも知れば良いのだ。いかに助けるかを知らずに来たとしても、今日そのすべを知れば良いのだ。共に戦うことを求められたことがなかったのなら、今、人類のためにともに戦うことを求める。

愛する子どもたちが、さらに一世代も暗黒の中で生まれることを許さないだろう。朝鮮は自由でなければならず、自由になるだろう。立ち上がれ！ 立ち上がれ、奴隷になることを望まぬ人々よ！

恨（ハン）に満ちた歴史の輪を断ち切り、そこから新しい時代を宣言し、新たな朝鮮のための道を準備する。だからこそ、わが民族の真の情で交わる、より公正で平等な社会を建設する目的と革命の誕生を宣言する。

自由朝鮮のために！



<http://www.cheollimacivildefense.org/>

出典：DailyNK Japan

<https://dailynk.jp/archives/121726>

自由朝鮮、「政治犯収容所解体」を要求！

世話人 山下 誠

「スペインマドリッドの北朝鮮大使館に何者かが侵入……」去る2月末に報道された時に、耳にはしていたし、気にはなったが、正直、それきりになっていたニュースである。これをふたたび思い起こさせたのは、NO FENCE 4月集会での質問だった。いわく「大使館襲撃した“自由朝鮮”のメンバーが米FBIに逮捕されたというが、その真相や、如何？」うかつにも、この続報を把握していなかった苛立ちを、私をネットサーフィンへと駆り立てた。

すると、金正男暗殺後に彼の息子である金ハンソルを保護したと主張した「千里馬民防衛」なる組織が、去る三一節を期に「自由朝鮮」と改名したこと、同日に発表した宣言文がソウル鐘路タブコル公園で読み上げられたこと、そして、金日成と金正日の肖像画を壁から外して床に投げつける映像が3月末にHP上に公開されたことなどが、韓国はもちろん、一部日本のメディアで報じられていたのだった。

さらに4月初の韓国メディアの報道によれば、「今後はもっと大きなことを準備して

いる」「……これらを拒否したら、とんだ赤っ恥をかくことになるだろう」と警告しつつ、以下の3点の対金正恩政権要求を発表したという（<http://www.cheollimacivildefense.org/?page=2> 参照）。

1. 政治犯強制収容所の解体
2. 脱北民の送還反対
3. 改革・開放

どうだろう。強制収容所こそが、金王朝体制維持の鍵を握っているものであり、その解体によってこそ北朝鮮の改革・開放が可能なのだという、NO FENCEの主張そのものではないか。

さて件の自由朝鮮だが、4月中旬に襲撃事件の実行犯として一部メンバーが逮捕されて以降、今のところ動きはなく、またHPも更新されていないようだ。これが、組織の“解体”を意味しているのか、それとも次に備えた“休止”なのか……現段階では、何を言ったところで憶測の域を出ないのだが、われわれの間で、北朝鮮の人権状況改善の処方箋を共有できたことは記憶にとどめておく価値があるだろう。

NO FENCE 2018 年度の主な活動

2018 年

- 4. 21 (土) 総会@人権ライブラリー
金柱聖氏 講演会@人権ライブラリー
- 5. 29 (火) 北朝鮮人権国際会議@ソウル (ICNK、HRW ほか 9 団体共催) に参加
- 6. 6 (水) 会報 no. 48 発行
- 6. 13 (水) 6.12 朝米首脳会談に関する声明発表
- 7. 7 (土) 集会@人権ライブラリー
第 I 部: 朴香樹氏講演会
第 II 部「太永浩氏の証言『3 階書記室の暗号』を読んで」
- 8. 16 (木) 会報 no. 49 発行
- 9. 1 (土) 高英煥氏講演会@人権ライブラリー
- 11. 5 (月) 会報 no.50 発行
- 12. 8 (土) 集会@人権ライブラリー リレー講演「インサイダーが見る金正恩と文在寅」
- 12.26 (水) 会報 no. 51 発行

2019 年

- 2. 9 (土) 姜哲煥氏講演会@人権ライブラリー
- 3. 24 (日) 会報 no. 52 発行

- 活動のアイデア
- 講演・証言集会の講師の案
- 会報の原稿

……等々、お気軽にご意見をお寄せください。

メー ル nofenceinfo@gmail.com

郵便 〒 102-0093 東京都千代田区平河町 1-5-7-203

